

ロタウイルス

どんな病気？



ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多くおこる感染性胃腸炎のひとつで、ロタウイルスというウイルスが原因です。日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は、冬～春に多く、生後3か月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。ロタウイルス胃腸炎の多くは突然の嘔吐に続き、水のような下痢をおこします。発熱を伴うこともあり、回復には1週間ほどかかります。また、ほとんど場合は特に治療を行わなくても経口での水分や電解質補給だけで回復しますが、時に症状が重く脱水が強い場合には入院が必要になることもあります。

ワクチンの接種対象

ロタウイルスワクチンは定期接種のワクチンで、1価ワクチンと5価ワクチンの2種類あります。どちらのワクチンも口から飲むワクチンです。1価ワクチンは生後6週から24週までの間に27日以上の間隔をおいて2回接種し、5価ワクチンは生後6週から323週までの間に27日以上の間隔をおいて3回接種します。いずれのワクチンも1回目は生後14週6日までに接種することが推奨されています。